

会 議 録

- 1 会議の名称 令和5年度 妙高市子ども・子育て会議（第1回）
- 2 開催日時 令和5年7月12日（水）午後1時30分から3時30分まで
- 3 開催場所 妙高市役所 4階 402会議室
- 4 出席した者の氏名
  - (1) 委員  
江口香代委員、東條望美委員、樗沢秀久委員、佐藤友美委員、丸山瑞穂委員、築田優子委員、笠原千鶴留委員、浅岡佳代委員、江口克也委員、畑山隆史委員、児玉久美子委員（会長）、乗木邦友委員（副会長）、平出正樹委員、小川直子委員（アドバイザー）、飯塚教裕委員（アドバイザー）
  - (2) 執行機関（事務局）  
塚田教育長、こども教育課 余野課長補佐、酒井園指導主事、丸山係長、寺島係長、浅野係長、松岡副参事、長野主査、健康保険課 長谷川係長、
- 5 議題
  - (1) 第2次子ども・子育て支援事業計画に基づく取組の実施状況について
  - (2) 第3次計画の策定及び子育てニーズ調査の実施について
- 6 会議録署名委員の選出  
委員より意見なく、会長（議長）の一任により、樗沢委員と佐藤委員が選出された。
- 7 発言の内容  
資料により、事務局の各担当係長が順次説明を行った。

<質疑・意見など>

委 員 子ども家庭支援センターと子育て世代包括支援センター、子ども家庭センターの内容や役割などは、それぞれどう違うのか。

事務局 子ども家庭支援センターは、現在、いきいきプラザの4階において、NPO法人ゆめきゃんぱすへ業務委託している「子育て広場」「ファミリーサポートセンター」機能を総称するものである。子ども世代包括支援センターは、主に子どもや妊産婦に関する支援全般を担うものであり健康保険課で進めている。子ども家庭センターは、児童福祉法の改正に伴う取り組みの一つとして、児童虐待の予防を大きな目標として、妊産婦から子ども、またその家族を一体的に支援していくものとして、市町村の設置が努力義務となっている。

委員 こども家庭センターは、どこに設置される予定なのか。

事務局 現在、検討中であるが、市役所とは別の場所ではなく、市役所の一つの部門として、子ども家庭センターという機能を設置する予定である。

委員 ファミリーサポートセンターの利用が減少傾向となっている要因をどう考えているか。

事務局 一部、不適切な利用があり、これらを是正することで利用者の大きな減少につながった。また、まかせて会員とお願い会員の人数のバランスが悪く、実際にサービス利用を希望しても受け手が見つかりにくいケースもあり、それぞれの料金を含めた制度の見直しを検討したいと考えている。

委員 入園率も上がっており、以前に比べて、子どもの預かりのような利用が減っていることも要因ではないか。

委員 子ども・子育て支援事業計画について、委員からの意見をどのように反映するのか。

事務局 子ども子育て会議の中で、いただいた意見に基づき、必要に応じて計画の見直しを行うこととしている。また、新たな計画の策定にあたっては、市民のニーズ調査を行い、その結果を反映することとしている。

委員 1歳児家庭訪問について、実施率が93%となっているが、未実施の理由は何か。

事務局 訪問の連絡を行った際に、2子目、3子目のため、特に訪問は不要ということで訪問を断れたケースがあり、結果的に実施率が100%とならなかった。

委員 普段から、妙高市の子育ては手厚いと感じているが、他市に比べてここが自慢できるとか、ここは薄いかもしれないとかいうことはあるか。

委員 出産前後や保育園児に対する支援は、以前よりもさらに手厚くなっていると感じるが、小学生が、空白になっているのではないか。一昔前は、放課後の子どもたちが、まちに出たり、行き場があったり、色々な行き場所があったが、今は、親が忙しく、子どもは家に帰って行くところもなく、コロナ渦もあり、自宅にいるような状況が何年も続いている。このような状況を解消していけたら、すごくいいまちになると感じている。ニーズ調査の中でも、放課後の過ごし方というのを盛り込んではどうか。

委員 障がいを持つ子どもに対して、保育園の頃は、ひばり園での早期療育、小学校に上がってからは特別支援といったものがあり、このような取組は続けてもらいたい。

委員 一時保育について、上越市のように、時間ごとの料金設定があると良い。また、家庭事情などで親が送迎できない時があり、園での送迎バスがあるとありがたい。

事務局 今年度からの学校での給食費無償化は、他市に先駆けて実施しているものである。そのほか、市で運営しているひばり園や、病児・病後児保育は、利用者からも好評をいただいている。また、第2次計画策定時のニーズ調査でも、自然環境とか、出産・子育てサービスに対して、一定の評価をいただいている。

委員 今回、実施するニーズ調査について、子供が複数いる場合は、どのように回答するのか。調査は回答しやすいように工夫してもらい。

事務局 回答方法などの詳細は、これから検討するが、調査項目については、前回との比較をする観点から、基本的には、前回と同様の内容を考えている。必要に応じて質問を追加したいが、子どもが保育園か小学生かで回答が分かりやすいように工夫したい。

委員 ニーズ調査について、小学生に関する質問が不足しているのではないか。

事務局 これまで、小学校関係のアンケートを取る機会がなかったので、子どもが安全安心に学習ができているかどうか、また教育にかかる経済的負担などについて、項目の追加を検討したい。

委員 グーグルフォームでアンケートをとる場合、スマホを持っていない方への対応はどのようにするのか。

事務局 学校や園を通じて、QRコード付きの調査の依頼文を配布予定であるが、スマホ対応できない方は、紙での対応もできる旨を記載したい。

委員 妙高市は、自然が沢山あり、保育園児であれば、無料で遊べる場所も沢山あるが、小学校になると、どのようなところで遊ばせるのが良いかと考えている。ニーズ調査についても、できるだけ多くの人から回答してもらえるような工夫をしてもらいたい。

委員 保育の現場は深刻な人材不足である。ただ預ける場所じゃなくて、しっかりした保育の質を担保していく場所にするには、総合的に考えないと、ダメなところまでできていると考えている。また、民営化については、慎重にお願いしたい。報道にある様な不適切保育というのが、起きないようにするにはどうやったらいいか。現実には本当に厳しい状況である。

事務局 先般の6月の定例会市議会において、子ども達のための安全な公園づくりについて質問があったが、近くの公園の状況などで感じていることはないか。

委員 白山町地内（流雪緑道内）のじゃぶじゃぶ池に水が流れていないが、どのような管理となっているのか。

事務局 当該施設については、安全面などの観点から、水を張っていない状況である。

委員 高い遊具を購入するのではなく、木を植えたり、築山を作ったり、自然を大事にした遊び場を作っていただけると、小学生から小さい子達まで、利用できると思う。


委員 旧斐太南保育園の裏に、里山保全クラブが整備している「ひみつ森」があり、自然の中で恵まれた環境となっている。

委員 現在、建設中の図書館等複合施設に設置される子育て広場に合わせて、小学生が何となく放課後いて、友達と喋ったりできる場所があると良い。

委員 市民などからの様々な相談については、相談者と行政の擦り合わせが大切であり、相手の目線に立って、行政側も要望に応じていくことが必要と考える。学校間にも格差があり、その環境も変化しており、GIGAスクールについても、職員の技術等に差があるため、多く触れることで慣れていく必要がある。また、子どもの第三の居場所については、全体への周知や情報共有が大切であり、今回の会議は有意義であった。

上記に相違ないことを確認する。

令和 5 年 8 月 24 日

氏名 佐藤 友美 

氏名 櫻 沢 秀久 